

## 北海道山岳連盟山岳スキーツアー鳥海山に参加して

登別山岳会 渡邊 良久

平成31年4月29日(月)から5月3日(金)の日程で山岳スキー技術研修・強化合宿『鳥海山』に参加しました。

4月29日、苫小牧西港フェリーターミナルに集まって(16名)、夕刻、苫小牧を出港した。

4月30日、早朝、八戸港に着く。マイクロバスに乗り鳥海山へ。昨日まで晴天が続き、後半の連休も良いはずだったが芳しくはなかった。予定では鳥海山の途中にある笹ヶ岳まで登り滑降の予定。しかし、天候が芳しくないということで予定を変更。運転手の好意で花立牧場公園へ寄り道。景色を見ながら雑談していると突然満開の花が咲く桜並木道、車内は感嘆の声が沸き上がった。宿泊の大平山荘に着き時間があったので吹浦コースの下見をした。登山口は除雪した際の雪の壁ができていた。急ではあるがスキーで登った形跡があった。次、100mぐらい先に行くと登山道ではないが沢系のゆったりとした斜面に登った形跡がある。象潟コースまで足を延ばし登山道の状態を見た結果、真ん中の沢地形を登ることになった。山荘の夕食をとり、途中で購入した数種類の地元の酒と、道岳連会長から頂いた酒を飲み比べ、山の話に花を咲かせ、明日の天気に不安を覚えながら就寝した。



令和元年5月1日、5時30分起床。早めの朝食をとり登山口へ、準備体操をして山スキー12名とスノーシュー3名で7時35分出発。登り初めは日本海が良く見え寒くもなく上々の山行日和、上に上がるにつれ南風が強くなり濡れないまでも顔に水滴が当たるようになっていた。だんだんホワイト状態になり回りがよく見えない。ここでスノーシュー班、下山と判断、藤木(晴)氏と共に下山。スキー班は地図とコンパスを頼りに頂上を目指す。10時頃、鳥海湖の見える笹ヶ岳Ⅲ峰(1,650m)まで上がった。ドロップインしたいところが霧が立ちこみまるで見えない。リーダーがこれからは天気が良くならなると下山と判断、記念写真を撮り下山。周りが見えて滑走ができるところまでシール走



行。下の様子が見えてきたのでシールをはずし班ごとに滑走した雪はザラメで波をうってはいたが滑るのには苦にならない雪質で気持ちの良いスキー滑走だった。11時30分、早い下山だったがすでにバスが待っていた。大平山荘に戻って後片付けと入浴を済ませた。まだ、飲むには早いということで町まで下って遊佐町にて十六羅漢岩の観光をする。海岸の岩場を削った見事なものだった。近くの道の駅に寄り、山荘で飲む酒を買い求めた。山荘に戻り食事前の懇親会、夕食を済ませ部屋に戻り明日の天候を調べたら強風が吹き荒れ山行どころではない。滑ることをあきらめ夜遅くまで酒を酌み交わした。

行。下の様子が見えてきたのでシールをはずし班ごとに滑走した雪はザラメで波をうってはいたが滑るのには苦にならない雪質で気持ちの良いスキー滑走だった。11時30分、早い下山だったがすでにバスが待っていた。大平山荘に戻って後片付けと入浴を済ませた。

まだ、飲むには早いということで町まで下って遊佐町にて十六羅漢岩の観光をする。海岸の岩場を削った見事なものだった。近くの道の駅に寄り、山荘で飲む酒を買い求めた。山荘に戻り食事前の懇親会、夕食を済ませ部屋に戻り明日の天候を調べたら強風が吹き荒れ山行どころではない。滑ることをあきらめ夜遅くまで酒を酌み交わした。



5月2日、朝湯をして朝食、窓の外を眺めると強風で木がゆれ、周りは霧の中に、やはり滑れる状態ではなかった。バスに荷物を積み鳥海山を離れ一路八戸へ、昼食のため八食センターに入ったが食堂や販売店は人・人・人。長蛇の列で買い物も食事もできそうもない。仕方がなく、弁当を買ってバスの中で食事をした。フェリー出発時刻には相当時間があるのでバスで南下。かなり南下してお隣の岩手県洋野町の大沢温泉の湯につかり疲れを癒す。八戸港への途中、有名な『うみねこ繁殖地の蕪島』に立寄りウミネコ観察。フェリーターミナルで田原さんに別れを告げフェリーに乗った。和室の部屋に着くなり各々酒とつまみを出し宴会、毎年?今年も山頂まで登ることが出来なかったので来年も再挑戦という話で盛り上がった。

5月3日、朝、苫小牧西港着。別れを惜しみながら解散した。

スタッフ及び関係役員様スキーの滑降は残念でしたが楽しいツアーありがとうございました。